2022 年 7 月 24 日発行

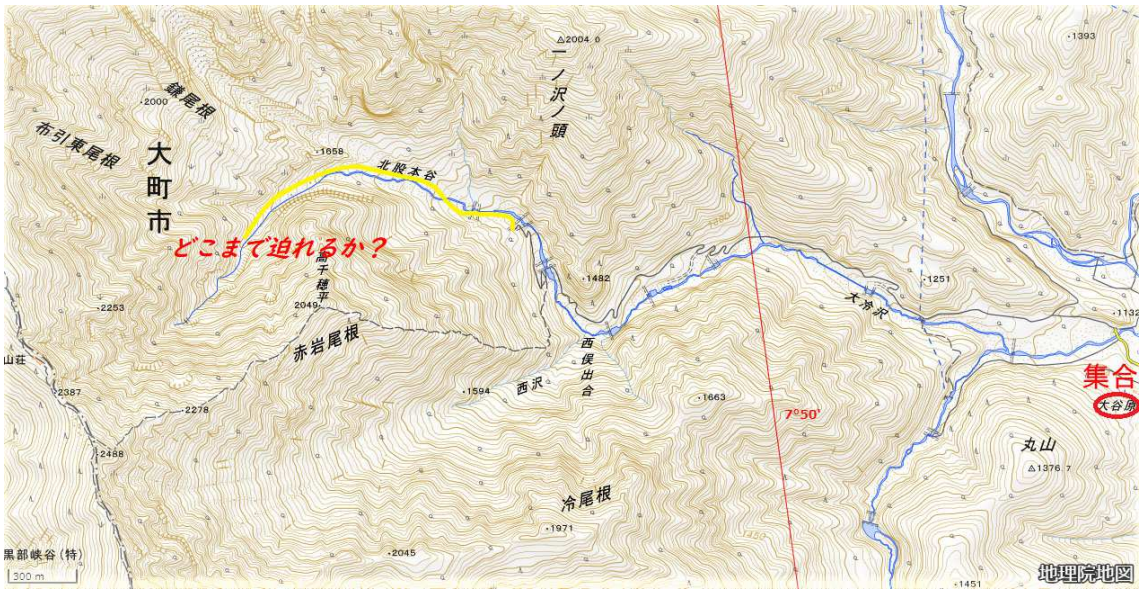
大町山岳博物館友の会　第　192　号

ゆきつばき通信

行事のご案内（友の会主催事業）

鹿島川・大冷沢の源流を探る

本年度の山岳博物館のメインテーマは大町と水。このテーマに合わせ比較的源流部に迫りやすい鹿島川・大冷沢を遡ってみます。登山道ではありません。また携帯電話も繋がらない場所になります。そのため安全性を高めるため一定の参加条件を付けさせていただきました。



《期　　日》　8 月 27 日（土）　午前 7 時～午後 3 時
（天候等による実施の可否は下記によります）

《集　　合》　大谷原　登山届ポスト前（現地集合・解散）

《募集人員》　会員 15 名（定員になり次第締切）

《講　　師》　西田均氏、補助講師大町山の会会員

《参 加 費》　500 円（保険代・前日午前 10 時以降不参加となった場合にも保険料のご負担をお願いします）

《持 ち 物》　昼食・行動食・飲み物（沢沿いなので少なめでも良いか）・ヘルメット・スリング 3 本（1 本は身体に廻せるもの）・カラビナ 3 枚・保護

用手袋　ほか必要品。靴は、トレッキングシューズ（ローカットでも構わない）

《参加条件》　体力目安⇒3 年以内に北アルプス稜線に到達していること。
又は、60 歳以下であること。
毎日 2 ㎞以上の速歩などを行い体力向上に努めてください。

《申し込み》　8 月 1 日～8 月 17 日まで（氏名・ふりがな・性別・生年月日 必須）
電話・FAX または直接、友の会事務局へ　（Tel/Fax0261-23-6334）

《当日連絡》　090-3440-1265（西田・但し大谷原より上部は電波が届きません）

◆特記事項

※　ヘルメット、スリング、カラビナが無い方は申込時に申し出て下さい。
※　参加者の体調などを見て、途中で待機のお願いをすることもあります。
※　当日の天候、前日までの降雨状況、ルート状況等により中止とする場合があります。
※　コロナウイルスの感染状況によっても中止になることがあります。休憩時、会話時のマスク着用。体調の悪い方は参加をされないようお願いします。

善光寺街道を歩いてみよう。アゲイン！（予告）

昨年の 10 月 23 日に「善光寺街道を歩いてみよう」という企画を計画しました。ゆきつばき通信で募集をしましたが、通信が着いてすぐに申し込みをしたのにいっぱいで参加できなかったというお声をかなりいただきました。今回は前回参加できなかった方のために、再度同じコースを企画しました。８月に改めて詳細をご案内し募集をさせていただきます。基本的には前回参加できなかった方対象ですが、前回参加された方もキャンセル待ちというかたちで受け付けさせていただきます。

日程は、10 月 29 日（土）～10 月 30 日（日）
小川村　林りん館に宿泊し、夜は星空観察会を予定しています。
29 日（土）だけの参加も星空観察会だけの参加でも大丈夫です。

［ 山博行事等のご案内 ］　**企画展　「仁科三湖の成り立ち」**

標記が 7 月 23 日（土）から 10 月 16 日（日）まで行われます。
ミュージアムガイド　8 月 13 日（土）　9 月 10 日（土）　10:30～・14:30～
地学見学会　仁科三湖の成り立ち　9 月 4 日（日）　9:00～16:00
さんぱくゼミナール　青木湖が記録した気候変動
公文富士夫氏（信州大学名誉教授）　9 月 17 日（土）　13:30～15:30
親子地学教室　河原の石ころを見に行こう　9 月 25 日（日）　9:00～11:30
※ミュージアムガイド以外は申し込みが必要です。広報誌「山と博物館」をご覧いただくか、山岳博物館にお問合せ下さい。関連する県山岳総合センター事業もあります。

報　告

自然観察会　佐野坂丘陵と親海湿原の成り立ちを歩く

《期　日》　6 月 12 日（日）　午前 10 時 00 分～午後 3 時 30 分
《場　所》　佐野坂丘陵周辺　《講　師》　太田勝一専門員　《参加者》　22 名

前日の雨も上がって、陽も射す天気になったが風はちょっと寒かった。役員含め 22 名の参加者数は観察会としては少し多い人数であったが、新しい会員の参加があったのは枠の余裕だったかと思う。

観察会のテーマは、大崩壊により古姫川を塞き止めて青木湖を作ったとされる佐野坂丘陵の形成を実感することである。これは、7 月からの企画展の「仁科三湖の成り立ち」と関連付けたものでもある。

まず、旧ヤナバスキー場に集合し、青木湖南東側からこれから行く佐野坂丘陵と青木湖、崩壊発生源の仁科山地（この時点で上部は雲）を確認し、概要説明を受けた。

次に、丘陵の北側にある親海湿原に移動し、湿原から姫川源流を回った。親海の南側の佐野坂丘陵は、急傾斜で湿原に接して特異な地形である。丘陵末端で仁科山地からの安山岩の角礫や東山から来た花崗岩のやや丸い礫を確認した。親海の水の供給源は西山の鳴沢川を主体とするなど、宮澤会長からもコメントがあった。湿原の南東側の湧水は、2 週間前の下見の時に比較すればだいぶ減っていた。湿原は、今年突然復活したというミツガシワはすっかり花は終わっていたが、サワオグルマやサギスゲ、カキツバタの盛りで、トキソウが咲きかけているのを先に来ていた人から教えられた。親海湿原の東側の尾根はドウカク山というが、ドウカクとはトキ（朱鷺）のことだ。

また、宮澤会長からドウカク山の下の地質は東山と同じであることが説明された。鳴沢川の伏流水である姫川源流では水量の減少やバイカモの減少が指摘された。以前は豊かな水の流れにバイカモが揺れていた。

午後は佐野坂スキー場の中段に移動し、崩壊斜面に対して青木湖を作った崩壊堆積物の位置が全体に北にずれていること

を感じつつ、転石や沢の押し出し堆積、そして、核心の崩壊堆積の露頭を確認した。旧青木湖スキー場に少し寄ったところに蛇紋岩の巨礫が転がる（周囲は安山岩転石が多い）。沢の押し出しにはホルンフェルスの巨角礫を含む。そして、ガラガラのところを苦労して行った崩壊堆積の露頭は安山岩転石を含んでいる。ホルンフェルスはより上流の地質で崩壊の後の土石流で来たとみられる。

今回の太田専門員の研究は、仁科山地の安山岩や堆積岩、花崗岩といった地質分布と丘陵の転石分布が関連付けられている（石の区別は難しかった）。地形図の方がわかりやすいが、崩壊の軸に対して堆積の軸は200mほど北にずれている。転石の分布にも偏りがある。なぜずれているか、まだいろいろ解明していかなければならないことも多いが、太田専門員の成果と仮説が企画展でも示されると思う。

（担当役員　丸山卓哉）

行程

10:00　　ヤナバスノーパーク駐車場［受付 行程説明 会長挨拶 講師紹介 概要説明］
10:30-10:45 ヤナバスノーパーク駐車場 → 佐野坂スキー場 移動
10:45-12:15 親海湿原～姫川源流 巡検 湧水確認 ミツガシワ復活 バイカモ減少
12:15-12:45 昼食
12:50-13:05 佐野坂スキー場 → 佐野坂上部スキー場 移動
13:10-15:30 佐野坂丘陵 巡検 崩壊箇所と崩壊堆積物の位置関係把握、その根拠
15:40　　佐野坂上部スキー場で解散

烏帽子の会

活 動 報 告

《アルプス・安曇野を望む好展望の里山 光城山＆長峰山》

《月日》5 月 28 日（土）　　《天気》快晴　　《参加者》18 名

《コース状況及び感想》

爽やかな快晴の下、3 日前の豪雨で滑りやすくなっているかと心配でしたが、よく整備された道は歩きやすく山野草を愛でながら登りました。ホタルカズラの青色の違いに感動し、ウツギを見つけて初めてウツギの花を覚えた時「卵の花の匂う垣根～」と歌われているけど「香らないよ…ほら…」と、ちゃんと五感を使って確かめることを教わったことを懐かしく思い出しました。アカマツコースを登っていくと南アルプスから常念岳・大天井まで展望が開けます。光城山山頂で槍ヶ岳を確認。遊歩道を歩いて長峰山を目指します。廃屋、防火水槽、史跡等が残り、昔の生活を偲びながら木漏れ日のなかを歩くのもいいものです。蝶の道で「サンショウ」と「イヌザンショウ」が並んで植わっていて違いがよくわかりました。最後頑張って登ると、北アルプスが堂々とした姿で迎えてくれました。広々とした安曇野を眺めながら、その成り立ちの説明を受ける贅沢を味わいました。

昼食の後、総会。「有川先生、80 才おめでとうございます。いつもサポートありがとうございます。これからもよろしくお願いします。」「おまんじゅう、『梅一粒』」はいかがだったでしょうか。事務局の川崎晃・祐子様、いつもお心遣い感謝です。

展望台から見渡す安曇野の田園風景は超一流、360° の眺望は最高。帰路は烏帽子峰に立ち寄り、ニセアカシアの香りが甘く漂う中、来た道を歩きました。東屋手前から北回りコースを下り、ジグザク道も乾いていて滑ることもなく、光城山駐車場に無事到着。他に「コバノガマズミ」「オドリコソウ」「ムグラ類」「ジュウニヒトエ」「カキドオシ」「コアヤメ」「レンゲツツジ」等が心に残っています。ご参加の皆様、ありがとうございました。　（常山 幸子）

《コースタイム》　（6 時間 20 分、約 9 ㎞、18000？歩）

光城山駐車場 WC（8:40）⇒第一ベンチ（9:10）⇒分岐（9:25）⇒アカマツコース⇒三角点 911m WC　光城山山頂　古峯神社 WC（10:15）⇒あずま屋下⇒車道・遊歩道⇒935m蝶の道⇒長峰山山頂 WC（11:30）　昼食・総会　出発（13:00）⇒往路を帰る　途中烏帽子峰（13:30）⇒遊歩道⇒あずま屋の手前からジグザグの北回りコース（14:00）⇒光城山駐車場（15:00）

光城山から長峰山トレッキング（感想文）

朝から快晴の中、気持ちよく歩く事ができました。この山は何回か歩いていますが、今回は登りも下りも初めてのコースでしたので、また新鮮な気持ちで参加出来ました。花や山の名前、地形地質の説明などたくさん教えて頂き、覚えていられるかどうかは別としてもとても勉強になりました。

サングラスを腰ベルトから襟ぐりに掛け直したことをすっかり忘れてしまい、長峰に向かう途中で無くしたと思って引き返すという失態をしてしまいました。担当の方には分岐点で待って頂くなどご迷惑をお掛けしてしまい申し訳ありませんでした。

体力的にも時間的にも丁度良い山行でした。お饅頭、おいしくいただきました。担当の皆様お疲れ様でした。今後とも宜しくお願い致します。　　鈴木幸子

令和４年度「烏帽子の会」総会報告

令和４年５月 28 日
「烏帽子の会」事務局

５月 28 日（土）すがすがしい五月晴れの中、光城山から長峰山のコースを有川さん、丸山さん、常山さんをリーダーに歩いてきました。途中長峰山の頂上で、仙波さん、若林さん、荷物の搬入等サポートをしてくださった有川先生と合流し青空のもとで総会を開催しました。

まず、今年 80 歳になる有川先生の表彰式を行いました。宮澤さんに表彰状を読んでいただき、プレゼントを渡していただきました。今年は今後４名の表彰を予定しています。会計報告のあと、今年の山行予定を下記の通り決めました。

月	場所
７月	鍋冠山　（変更　乗鞍岳）
９月	御嶽山
11 月	大渚山
１月	守屋山
３月	栂池高原スノーシュー
５月	西山城址（総会）

※サークル人数が多くなったため、烏帽子の会の新規募集はしておりません。

サークル烏帽子の会へのお問い合わせは、事務局（電話：0261-23-6334）まで

ボランティアサークル

今年のボランティアサークル研修は 11 月 13 日に、令和３年の友の会総会で「大町市にみる　岳(たけ)・野(の)・湖(こ)・山(やま)」と題して講演いただいた矢野孝雄先生のご案内で、「岳野湖山」のフィールド観察会（巡検）を行います。野湖山の地形地質と人々の岳野湖山観を現地確認し、地形とそれを作り上げた地質現象を知り、自然と人々の繋がりを考え、ボランティア解説や友の会活動に反映していく研修にしたいと思います。

月例の作業は、博物館周辺の除草や発行物の封入発送作業を行っています。

◎大町社協から地域福祉事業活動事業助成金交付決定通知が過日ありました。研修等に有効利用させて頂きたいと思います。

ボランティアサークルへのお問い合わせは、事務局（電話：0261-23-6334）まで

博物館事業より

「水にまつわる民話の世界」　大町民話の里　もんぺの会

6月19日午後、企画展「大きな水がめとしての北アルプス、そして水のまち大町」の関連イベントとして標記が行われた。

大町は水に恵まれているが、水は恵みももたらせば災害ももたらすものであり、それを子孫に伝えるために民話となっている可能性があるということが、この企画のベースにある。お話は、オカリナの演奏やちょっとしたお遊びを挟んで、青木湖や仁科神明宮の雨乞いの話、泉小太郎など５編が語られた。

ゆきつばき通信編集室より

事業の関係で少し不定期になりますが、ゆきつばき通信191号をお届けします。「鹿島川・大冷沢の源流を探る」は登山道から外れるため参加条件が付きますが、見上げる稜線に非日常を感じられるところですので、ぜひ参加してください。

３年ぶりの開催となる「福島の子どもたち保養プログラム～第10回信州・大町　山の子村キャンプ（８月７日～13日）」に友の会は協力します。毎年、20名ほどの子供たちを受け入れています。10日午後には山博の見学も予定しています。お手伝いいただける方、山博モルゲンロートの山内さんまでお知らせください。

［フェイスブック　http://www.facebook.com/yamanokomura］

（丸山卓哉）

今年10月まで、体験入会として年会費を納入しなくても友の会事業に参加できます。お友達を会にお誘いください。

ゆきつばき通信　第192号
発行／大町山岳博物館友の会　　2022年7月24日
〒398-0002　長野県大町市大町8056-1
大町山岳博物館内　山博友の会事務局　　Tel/Fax 0261-23-6334

山博ページ　http://www.omachi-sanpaku.com/
友の会は、山博の情報発信のために山博ホームページの維持に協力しています